

第 6 次草津市総合計画第 2 期基本計画（案）について

1. 経緯

令和 3 年度から令和 14 年度までを計画期間とする第 6 次草津市総合計画では、「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健康創造都市 草津」を将来に描くまちの姿として掲げ、人や地域の絆を大切にし、誰もが生きがいをもち、健やかで幸せを感じられるまちづくりを進めています。

総合計画は、本市の目指すまちの将来都市像とその実現のための施策の基本的な方向性を示す基本構想と、基本構想に基づき、役割分担、目標値や目指すべき姿を示す基本計画の二層構造としております。現在取り組んでいる草津市総合計画第 1 期基本計画の計画期間が令和 6 年度までであることから、第 1 期基本計画の計画期間終了後も、総合計画に基づく計画的な行政運営を行っていく必要があるため、令和 5 年度から、次期計画である第 6 次草津市総合計画第 2 期基本計画の策定を進めています。

この度、第 1 期基本計画の進捗状況や評価、国県や社会の動向、総合計画特別委員会や附属機関である総合計画審議会、また、市民との協働の場である総合計画策定市民会議での協議を踏まえ、第 2 期基本計画（案）をとりまとめましたことから、協議をお願いするものです。

2. ポイント（第 1 期基本計画からの主な変更点等）

◆ウェルビーイングについて

「ウェルビーイング」とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態を表す概念であり、近年では、GDP 等の経済指標では捉えられない人々の幸福度や満足度を可視化する試みが活発化しています。本市では、かねてから「健康」に関する取組を推進してきており、ウェルビーイングは、第 6 次草津市総合計画の将来に描くまちの姿である「ひと・まち・ときをつなぐ 絆をつむぐ ふるさと 健康創造都市 草津」と方向性を同じくするものであることから、これまでからの第 1 期基本計画での取組をより一層発展させるために、第 2 期基本計画では、市民の「暮らしやすさ」と「幸福感」を数値化・可視化する「地域幸福度（Well-Being）指標」を活用し、ウェルビーイングの取組状況を把握します。

◆リーディング・プロジェクトについて

第 1 期基本計画では、将来ビジョンの実現に向けて、草津市のまちづくりを先導・けん引する 4 つのリーディング・プロジェクトを重点方針として位置付け、分野横断的な施策展開を進めました。

将来ビジョンの達成に向けて、これまで進めてきた方向をさらに積み上げていくことが有効と考えることから、第 2 期基本計画においても、第 1 期基本計画の 4 つのリーディング・プロジェクトを継承し、将来ビジョンの実現に向けて、草津市のまちづくりを先導・けん引する重点方針として、分野横断的な施策展開を図ります。

また、今なお人口増加傾向にある本市においても、人口減少社会の到来に向け、情報格差に対応しつつ、デジタル技術を活用した業務効率化を進めることにより行政サービス

等の向上につなげるDXの取組を進め、市民の利便性や快適性の向上を目指す必要があることから、新たに「DX推進プロジェクト」を5つ目のリーディング・プロジェクトとし、すべての分野を下支えする視点とします。

◆地方創生について

総合計画は“総合的かつ計画的なまちづくりの指針”であり、総合計画が目指すまちづくりの方向性が、「まち・ひと・しごと創生法」の趣旨と同じものであることから、第6次草津市総合計画第1期基本計画と第2期草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略を一体的に策定し、進捗管理および評価を実施してきました。第3期草津市まち・ひと・しごと創生総合戦略についても同様に、第6次草津市総合計画第2期基本計画と一体的に策定し、魅力的で持続可能なまちの実現に向けたまちづくりを進めていきます。

3. 今後のスケジュール（予定）

令和6年10月2日	総合計画審議会
令和6年10月中旬	第2期基本計画（案）答申
令和6年11月	パブリックコメント、タウンミーティング実施
令和7年 2月	2月定例市議会（議案審議）